

神社本記、近江三十三所觀音、佛寺本記、近州
寺社年中行事の項より成り、その記述にも同一
なものが多い。江州土産卷十の内容は湖邊怪異
甲賀二十一家之次第、謠目錄、淡海隱士、水邊
名等があり、淡海地志卷十三には甲賀一郡在名、
湖邊名、湖上怪異、謠目錄、淡海隱士、名所詩
歌等よりなりその記述も類似してゐる。斯る點
よりみれば江州土産には編者も著作年代も無い
が恐らく淡海地志の原稿をなすものであると推
定される。年代は淡海地志著作年代の元祿二年
以前、恐らくは貞享、天和の頃かと想像される。

(未完)

新著紹介

○北海道地學に關する文獻目錄(著者別) 北海道地

質調査會報告第四號 四六倍判八九頁 十月發行

近年朝鮮及臺灣の地質に關する文獻が集輯されたことは喜
ばしいことであつたが、茲に又北海道の地學文獻目錄が公に
されたことは研究者に對する福音である。本目錄は著者別、
部門別、地方別の三部より成るものゝ第一著者別の部で北海

道帝國大學理學部地質學礦物學教室員諸氏の努力によつて編
纂されたものである。抑北海道の地質研究調査は我國で最初
に行はれた處で、パンペリーの名は我國地學界から忘れるこ
との出来ないものである。明治になつても開拓使はライマン
を主腦とした地質調査を行ひ、その結果炭田が開發されるに
至つたのであつた。以後は道廳の神保博士の研究、地質調査
所の多年に亘る礦物調査、最近に到つては東北帝國大學及び
北海道帝國大學の地質家によつて目ざましい研究が續けられ
てゐる。かういふ狀態ではあるが故神保博士調査以前の文獻
は國內流布が少かつた爲めか忘れられて居るものがかなりあ
る様である。本目錄中に採録されなかつたものの内で氣の付
いたものを次に掲げて本目錄の完璧に近づくのを望みたい。

一、開拓使顧問ホラシ、ケブロン報文 開拓使明治十二年

二月刊行 千三百五十三頁

本報告は開拓使應招教師頭取兼顧問ケブロンが千八百七十
一年以來千八百七十五年に至る間の自己及部下のモンロー、
ライマン、ウアーフィールド、ワツソン等の報文を集輯した
報告であつて、原文は英文で Reports and official letters
to the Kaitakushi Tokei. 1874. 748p. とつて公にされて
ゐる。

11' Lyman, B.S.—Report of Progress of the Yesso
Geological Surveys for 1875, and seven Coal Survey
Reports. Kaitakushi, Tokei. 1877. 111頁

此報文の後半はマクンベツ、サンケビバイ及ナイエ、ビバイ、ヌツバオマナイ、ボロナイ、イチキシク、カヤノマ各炭田の報文で其の内の大部分は單行のものとして文獻目錄に登録されてゐる。

III、Munroe, H. S. Geological Notes. Katakushi, Tokei. 1876. 一一一頁

四、ブラオンス述(横山又次郎、山田晴共譯) 北海道地質巡視報文 學藝志林 第五十六冊 二一七—二四七頁 明治十五年

五、來曼氏北海道地質總論第三章地質摘譯 山内徳三郎 地學雜誌第四號一一四枚、第七號七—十枚、第八號一一四枚、第九號一一四枚、第十號一—三枚、第十二號六—十枚、第十三號二—四枚、明治十二—十三年

この譯文の掲げられた地學雜誌はライマン門下の山内徳三郎、桑田知明氏等の出した第一號(明治十二年一月)乃至第十六號(明治十三年四月)までの我國最初の地學雜誌である。ライマンの北海道地質總論を譯したものはあるが、明治十一年に開拓使から刊行された北海道地質總論とは譯文を異にする。

六、北海道煤田概況(來曼氏地質測量報文摘譯)島田純一

地學雜誌第四號八—十枚、第五號七—十枚、第七號三—五枚、第八號四—八枚、第九號四—七枚、第十二號一—四枚 明治十二年

7、Jimbo, K. Unsere geologischen Kenntnisse von der Insel Hokkaido in Japan. Verhandl. d. Russisch-k. Mineralog. Ges. St. Petersburg. 2. Ser., XXXI, 1894. pp. 305—311.

これは嘗て本誌(第二卷三七六頁)に掲げたことがある。

此等の外主要ではないが外國文のものとしては Mitford (Quart. Journ. Geol. Soc. 1869), Adams (do. 1869), Brandt (Mitt. d. deutsch. Gesells. Natur-u. Volk. Ostas. 1874), Coquet (C. r. soc. indust. d. Mines à St. Etienne. 1876) などがあり、ライマンの A Report of Progress for the First Year of the Oil Surveys. 1877. 中にも北海道の記事がある。ライマンの北海道の報告に對する批評の言ひ譯けは Geological Magazine, 1876. に出てゐる。まづ氣付いた處は以上であるが文獻目錄には魯魚の誤りもなくはない。大井上氏の夕張の報文は空知のものより前に出たのに時が前後して掲げられてゐる。一々當つて見たのではないがかうした誤は一般に本文獻を使用する方々が務めて直して行つたなら完全無缺なものが出来るだらう。兎も角本文獻の様なエラボレーテッド・ビブリオグラフィが日本の學界に送り出されたことは一に北海道帝國大學の地質學礦物學教室の賜であることを感謝せねばならぬ。(中村)

朝鮮稼行鑛山分佈圖

朝鮮總督府鑛山課編 朝鮮鑛業會發行 九月 定價一圓

從來朝鮮の鐵山分布には其の位置の間違つて居るものが多かつた。雲山金鐵や大楡洞金鐵などは雲山邑や昌城邑の近所に描かれたのが往々あつた。本分布圖は百五十萬ノ一朝鮮地圖上に二十五種の鐵產物を其の所在に且つ設色輪廓の大小を以て昭和八年に於ける各鐵山の産額を示したものであつて前記の位置の間違ひは略無いものであるが鐵山の位置に點を入れぬことと各鐵山が込みあつた場合には設色輪廓がずれてゐることは或る點までの精確たるに過ぎないのは惜しいことである。然し多色刷で一見明瞭に朝鮮鐵山の分布を知ることが出来る。此の圖を見ると金鐵の各道に散在してゐること、鐵鐵は主として西鮮に産すること、未開發の炭田の廣いこと（炭田だけは不正確ではあるが未だ開發されぬ部分も薄墨色に塗られてゐる）、其の他高嶺土や硃砂やマグネサイトや雲母や螢石や礫石や明礬石や重晶石やの内地で鐵業法の鐵物になつてゐない多くの鐵種が廣く朝鮮に散在してゐるかを知らることの出来るのは事業家許りでなく地學者にも大に役立つことである。(S.N.)

○滿洲の地質及鐵產

遠藤隆次著 一九四頁 昭和九年十一月 三省堂發行 定價三圓

滿洲事變以來、我が國民の滿洲に對する關心はいやが上にも高まり、滿洲の地質、鐵產の調査、研究は飛躍的に進展し、それと共に滿洲の地質、鐵產に關する知識を必要とする人士の數も激増した。然るに從來、滿洲の地質、鐵產に就いての

綜括的の著述は殆ど全くなく（鐵產のみのものは出たが）、我々は斯る著書の現れんことを私かに望んで居たのであるが今回、遠藤博士の此の好著を得てこの望みが満たされて喜ばしい。遠藤博士は大正十三年以來、滿洲教育専門學校、教育研究所等に在職され、其の間、親しく滿洲の各地方に亘つて足跡を印し、地質學の研究に専心没頭されて來た篤學者であつて本書の如き著書の著者として最適任者の一人であるのはいふまでもない。本書は七章に分けられ、第一章滿洲に於ける地質研究の歴史、第二章地形、第三章地體構造論、第四章地質時代區分表、第五章地質、第六章對比の問題、第七章地殼變動史となつて居る。第五章は本書の主體をなすものであつて、十一節に分けて始生代から第四紀に亘る各時代の地層及び各の地層中に含まれる鐵床に就いて記述されて居る。其等の節の中、カムブリア、奥陶の兩紀は著者の最も得意とする部分であつて、それに多くの頁が割かれて居る。更にカムブリア紀、奥陶紀及び二疊—石炭紀の各節には三葉蟲、頭足類及び腕足類並びに陸棲植物化石に關する解説が附いて居る。挿入された圖は百八の多きに達し、その大部分は化石の寫眞であつて、滿洲の化石を調べる者にとつて非常に便利に出來て居る。卷末には色刷の滿洲國地質圖及び主要鐵產分布圖が各一葉添へてある。本書を通讀して見て本書が著者自身の研究及び最新の資料に基いた最も信頼すべき、且、アップトゥーデートの著述である事は明白であつて、滿洲の地質鐵產の

研究の好指針をなすものである。殊に主要文獻が殆ど洩れなく巻末にまとめて挙げられて居るのは有り難い。又索引までも附いて居るのは便利である。唯、本書に於て遺憾なのは鐵産に就いての記述が簡に過ぎる點である。各時代別に記したのは本書の特色であるが、もう少し詳細な記事が望ましい。とまれ本書は滿洲の地質及鐵産の好き指南書であつて、地學關係者の必讀の書たるを失はないものである。茲に著者遠藤博士の努力に對して滿腔の敬意を表したい。(SM)

○世界經濟の現勢

三菱經濟研究所 定價三圓五十錢

國際非常時を認識するために、まづ第一に世界現勢を理解しなくてはならない、本書は三菱の經濟研究所が、調査の結果で菊倍版六百九十一頁の尅大な書冊である、其目次は總論世界貿易の趨勢、世界海運界の情勢を一編とし、其二編には世界主要産業の情勢を明瞭適切に説明し第三編に各國經濟情勢と題して歐米以下世界主要國の産業、經濟、貿易が總説されてゐる、我等は本書に網羅された多くの統計表や指數表を製作された方々の勞力に心からなる感激の情をさしげると同時に世界經濟地理を説明しその現狀と對日本の關係に實際的の事狀を理解せしめんとされた著述者多數の方々の心勞にも同様の感謝を捧げたい。

本書の序にもある通り、一國經濟の危急存亡の秋に際して執るべき對策處置は各其國狀に依つて自ら異なるものがあつて然るべきである、然し今次の世界不況の如き場合には、高

遠深奥なる理想論を以て對策としても到底所期の効果を舉ぐることは出来ない、矢張り時局の匡救はその時局又は經濟のありのまゝの實際を國民多數が會得し理解して、自ら努力するより外に途のないことは此五ヶ年間の各國の事例が明に教へた所である、徒らに高遠な夢を追ふよりは目前の事態に接し上下一致、協力して生産力を旺盛にすることのいかに國際間に有效であるかは我等日本人の實驗したところであつた。

しかし勢の盛んな日本貿易品の海外進出は、他國の嫉視をうけ、國家主義的經濟政策に阻止されて、一九三四年の下半期には既にその影響が一方面に現はれてきた、蓋し儉安姑息に睡るべき時期ではない。

一九三五年の日本ことに我地理學界の人々は、新たに世界に對する日本の地理的位置を再認識しなくてはならぬ。さうした時期に最も必要な智識の寶庫として筆者は本書を、小中學校の地理科擔任教員の方々に推薦したい、終りに三菱研究所から昨年晩秋「東南洋諸國の國際貿易と日本の地位」といふ著述の出版もあつたことを思ひ出して、併せて一般の讀者子にこれを學ばれんことを望む。(藤田)

○下伊那の特殊産業

信濃下伊那郡教育會 飯田町
山村書院發行 定價二圓五十錢

信濃教育會下伊那郡會はさきに下伊那地質圖を發行したが、其後更に同郡下特産業たる織物、凍豆腐、椎茸、蕪弱等についての調査をすゝめ凡そ三年間地理調査部の努力の功空

しからず、飯田中學校松永勇君の統制の下に、こゝに新に題記の菊版三二九頁の尨大な書冊が出版された、第一章機業では機業が上郷、飯沼に集中せる理由をのべ第二章染物、第三章元結、第四章水引、第五章傘、第六章製糸、第七章凍豆腐、第八章コンニャク、第九章椎茸、第十章市田柿、第十一章其他の果樹、第十二章鯉の各章いづれも親切丁寧な歴史的地理的説明がある、思ふに所謂非常時の今日、農村の工業化が世界先進國の競ふて行ふ所となり、土地の狭い人口の多い日本での農村副業といふことが自力更生の第一要義として注目さるゝ今日、この書は恐らく多くの暗示を全國の農村特に山村に與へるであらうことを信じて、廣く世に讀まれんことを望むものである。

○江戸と大阪

幸田成友著 富山房發行 定價二圓五十錢

本書は幸田博士が東大商科で講義されたものによつて新に稿をつくられたものである、經濟史上の研究であるが、江戸及大阪の歴史地理を學ぶ人にとつて極めて有益な暗示にとむ名著である。(藤田)

○露西亞縱橫記

昇曙夢著 章華社 定價一圓八十錢

文學家の見た四六版四百頁の手頃なロシア記である、ソウイェト聯邦の地理をしる書物としてはいかゞかと考へられるけれども、ロシア人、ロシアの風物、ロシア人の趣味などゝいつたものは讀んでも面白い、北方大陸の夏の夜や秋の野原などと思ひもよらない風景が描寫されてゐる。

正直に云ふとソウイェト聯邦の新興の國情は、多くは宣傳的であつてハツキリわからない、しかしたとへ宣傳であつても、その宣傳の中にはいかにも努力してゐる傾向そのものは明になるから、事實の如何はともかく、かうした施設があるといふことだけは他山の石として知らねばならない。

本書の後の方にも新しいソウイェトの努力の様子のわかるところがある、一讀して面白い且つよい本であると信じる。

(藤田)

雜 報

○神戸市須磨區多井畑化石層

多井畑の東北、奥妙

法寺方面に通ずる路傍、厄除八幡宮より阪路を北方の谷底に下り、次の阪路に移らんとする處に約二尺五寸の凝灰質頁岩、その下に約五尺の妙岩層露出す、走向は北八〇度西、傾斜は西南に一〇度内外なり、この凝灰質頁岩層の下底部約一尺、妙岩層の上部約二尺の間には介化石を多く保有す、頁岩中の化石は石灰分を殘存するものもあるも、大部分は溶解し去り、砂岩中にては殆どカストのみにして保存は良好ならず、但し化石は夥しきを以て表面の風化せる部を取り去らば保存よき化石を採集するを得ん。

Trapezium japonicum, *Ostrea* sp., *Pitar* sp.,

Corbicula (?) sp., *Cyclina* (?) sp., *Cymatium* (?) sp.,